

◆九州北部豪雨	2~7
◆被災者支援に関する制度のお知らせ	8~10
◆市総合美術展作品募集ほか	11
◆市政功労者・社会教育功労者を表彰ほか	12~13

◆市民のひろば(14-15) ◆川柳(15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(16-17) ◆情報わいど(18-23) ◆がんばったね、柳川にこの人あり金子正一さん(24) ◆もちふみデビュー(25) ◆保健ガイド(26-27) ◆新市史抄片(28)



## 復興に向けて懸命のリレー

7月11日から14日にかけて九州北部を襲った豪雨によって、市内では2か所の堤防が決壊し、中山地区、六合地区、中島地区を中心に大きな被害が出ました。復旧作業には、市内外からたくさんのボランティアが応援に駆け付け、がれきの撤去や堆積した泥のかき出しなどを行いました。多くの方の暖かい支援により、柳川は復興に向けて一歩ずつ前進しています。

## 地域を支え続けた吉田孫一郎

新市史抄片

89

問い合わせ 市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

昨年11月から今年2月まで「子爵曾我祐準」展を柳川古文書館で開催しました。その曾我祐準の郷里柳川における親友の一人が吉田孫一郎です。今回は、その人物について紹介したいと思います。

吉田孫一郎は天保14(1843)年3月、柳川藩中老(藩の実務官僚のトップ)を務めた吉田舎人の長男として出生しました。明治2(1869)年には父親の跡を継いで中老となり、廃藩置県の後、明治11年から置かれた山門郡役所(県と町村の間あった役所)のトップである郡長を務め



▲「留記」の一部(甲木与一郎先生収集史料・柳川古文書館収蔵)

ました。また、明治23年には福岡県会議員にも選出されています。一方で柳川における事業にも携わり、有明海特産の魚介類の缶詰生産で有名な興産義社(のち興産社)や、柳河第九十六国立銀行(のち柳河銀行)の設立にも尽力しました。

また、旧藩主立花家の運営を担う家扶や家令という役職も務めていました。その期間は合計すると約19年の長きにわたりました。立花家の当主寛治は農場経営に携わるとともに、貴族院議員も2期14年務めました。この間、吉田は立花家の安定を図るため、家憲(家の運用を定めた決まり)の制定にも関わりました。最終的に家令を辞めたのは明治43年10月で年齢的な衰えが理由でしたが、その精勤ぶりは親友であった曾我祐準から「御先祖以来歴代之忠勤」「土道之精華」とたたえられました。

吉田は文久3(1863)年の道中日記を始め、亡くなる大正2(1913)年まで、多くの記録を残しています。明治10年までの日記は郷土史家古賀長善氏がまとめ、平成3年に「柳河藩中老吉田孫一郎留記」と

して刊行されています。中には幕末の情勢を探るため、使者として各所に派遣された記録も含まれています。また、山門郡長時代の記録は「柳川市史 史料編VI 山門郡行政・上」に収録していますが、郡が行政を遂行していく上で生じた、さまざまな問題が記されています。ただ、「留記」と題された日記のうち、慶応3(1867)年と明治2年が欠けています。戊辰戦争をはさんだ時期であり、柳川藩の動向が詳細に記録されていると思われるだけに、大変残念なことです。しかし、これらの史料からは、時代が大きく移り変わった中で、地域を支え続けた人物の足跡をたどることが出来ます。

市史編さん係 江島 香

### 歴史資料保存のお願い

被災された皆様には、お見舞い申し上げます。今回の水害で被害にあった、古文書や掛け軸、古写真などの資料があれば、捨てたり焼いたりせず、市史編さん係にご相談ください。

### 編集後記

●広報広聴係の仕事は、市の出来事を記録し、広く知らせること。今回の水害では手伝いもせず、カメラを構える姿に不快を感じる人も多かったはず。しかし、撮影した写真は、被災状況を伝える資料として県や国に届けられ、復興に必要な原資をもたらす。どうかご理解願いたい。

●今回の水害で被災された皆様から心からお見舞い申し上げます。4日間で3県にまたがり甚大な被害をもたらした梅雨前線の集中豪雨。市内の状況はいうに及ばず、大分や熊本で河川の氾濫や雨量が800mmを越す地域も、一日も早く普段の生活に戻れることを切に願っています。(監修)

●7月14日に柳川を襲った九州北部豪雨。まさか我が身に災害が降りかかると思った人もいたのでは。週末だったので家族と一緒に避難できた人も多かったろうが、これが平日だったらと考えると、日ごろから家族で避難場所や連絡方法などの確認がいかに大切かをあらためて感じた。(和久)

平成24年6月末現在

## 人のうごき

- 人口 71,134人 (前月比-37)
  - 男 33,732人 (-9)
  - 女 37,402人 (-28)
- 出生 49人、死亡 69人
- 転入 116人、転出 133人
- 世帯数 24,749世帯 (+9)